

第5回「大人のためのブックトーク」開催しました！

11月19日岐阜大学副学長林正子氏と当館司書による本年度5回目のブックトークが開催されました。ノーベル文学賞の発表が終わり、話題性のある作家・村上春樹の文学の魅力について、熱く語られました。参加者 40人



取り上げられた本

『ノルウェイの森』 講談社 1987年発行
『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 講談社 1985年
『ダンス・ダンス・ダンス』 講談社 1988年
『羊をめぐる冒険』 講談社 1982年
『若い読者のための短編小説案内』 文芸春秋 1997年
『村上春樹、河合隼雄に会いに行く』 岩波書店 1996年
ほか

テーマ：「村上春樹文学の〈正統性〉」

新聞記事やご自身の論文から、村上春樹の作品について、以下のようなことに触れ、たくさんの著書を取り上げて語っていただきました。

1.

ノーベル文学賞に決まったボブ・ディランさんの歌

村上春樹さんの小説で重要な役割

岐阜新聞 H28. 10. 14

『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』

「私は目を閉じて、その深い眠りに身をまかせた。ボブ・ディランは『激しい雨』を唄いつづけていた。」

2. ドイツの村上春樹 ドイツ語圏読者はどのように読んでいるか

書評や感想から、次のように紹介されました。

- (1) 簡潔で軽妙な文体と新鮮で清明な雰囲気
- (2) 奇抜でありながら荒唐無稽とは思えないストーリー
- (3) 自分だけの価値観やライフスタイルを有する主人公像への共感

3. 森鷗外との類縁性

『ダンス・ダンス・ダンス』「僕は何も選んでいないような気がする。そして夜中にふと目覚めてそう思うと、僕はたまたま怖くなるんだ。」を取り上げ、『妄想』や『舞姫』と比較して、「近代文学が切り拓いた作家における〈自我〉との主体的な対峙の様式や方法が、現代文学の寵児にも遺伝子として伝えられている。」と述べられました。

『ドイツの村上春樹／森鷗外との類縁性』林正子氏
「国文学」第50巻2号 2005年2月 學燈社



【岐阜県図書館：木戸司書によるおすすめ本の紹介】

『女性官僚という生き方』 村木厚子・秋山訓子
岩波書店 2015年発行

『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』 山田正人
日本経済新聞社 2006年発行

『常識をひっくり返せばメシの種はいくらでもある』
山田昭男 こう書房 2013年

○感想等

- ・初めてブックトークに参加しました。最近仕事が多忙で、好きな本に触れる時間が少なかったのですが、1時間半、本と本の話に接する時間が作れて、新鮮でした。
- ・最近本離れしておりましたので、これを機に読み始めようと思いました。
- ・リズム感溢れるトーク、すごく気持ちよく拝聴しました。
- ・楽しく「文学」の講座を聴講できました。
- ・充実した内容であり、聞き応えを実感し、学生時代にタイムスリップしたような時間を共有させていただくことができ、見聞が広がりました。
- ・読書の興味が深まりました。
- ・深い読書のあり方について考える機会となった。
- ・先生の資料をたどり、理解することの助けになり、とてもいい時間を送らせていただきまして、ありがとうございました。
- ・村上春樹の作品は、一度も読んだことがなかったが、このような先生のわかりやすく、情熱的なトークに一度読んでみようと思った。
- ・文学と哲学は、やはり切り離せないと思いました。どこまでいっても、我は何か？との問いと感じます。林先生ご紹介の本もすべて読んでみたいです。
- ・林先生のもっと別の作家（もっと知られていない人がよい）についての話を聞いてみたいと思った。

次回予定

12月24日（土）

14：00～15：15（13：30開場）

無料、申込不要（当日先着60名）